

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン4種類♪

VdF クラ 蔵 2019 (白)

2019年は太陽に恵まれた年。ボノーム曰く、収穫したブドウは、夏の猛暑の影響で水分が蒸発し果汁が凝縮していたが、一方で日照りにより成長にブレーキがかかったことでしっかりと酸が残ったとのこと。前年同様に、フレッシュさを生かすため100%タンクで仕込んでいる。また、発酵が途中で止まり残糖が7g/L残っているので、再発酵防止のため瓶詰前のスーティラージュ時にSO₂を20mg/L添加し、さらに目の細かいフィルターをかけている。出来上がったワインは、アルコール度数が14%もありボリューム豊かだが、同時に酸もしっかりとあり、味わいが全くボケない！また、最後まで発酵しきれずに残った糖も、アルコールのボリュームと酸を緩和するような絶妙なハーモニーを生み出している！彼曰く、キンキンに冷やせばアペリティフ、食中であればローストチキンがおすすめ！チキンに負けないワインのボリューム感とレモンのような酸味が完ぺきなマリアーージュとのこと！

VdF クラ 蔵 2019 (赤)

2019年は太陽に恵まれた年。前年はガメイにカベルネフランをアッサンブラージュしたが、今回はカベルネフランが霜の被害に遭いほとんど収量が取れなかったため100%ガメイで仕込んでいる。また、今回はフレッシュな果実味をなるべく生かすために100%タンクで仕込んでいる。出来上がったワインは、蔵の白同様にアルコール度数が14%もありリッチでボリューム豊か！だが、実際の口あたりは柔らかくキュートな酸味もあり、不思議とアルコールの重さはさほど気にならない！また、ボノーム自身も、アルコールの高さを緩和するために、発酵の時にできた二酸化炭素をわざと少量残すなど、ワインに少しでもフレッシュ感を出すような工夫を凝らしている。まるで南のシラーのように濃厚でフルボディだが、蔵の真骨頂である若さと勢いは存分にお楽しみいただけるだろう！

VdF ペティアン・ナチュレル 2018 (白泡)

2012年にティエリ・ピュズラと一緒にカベルネフランでペティアン・ナチュレルロゼをつくって以来6年ぶり、しかもボノーム単独では初めて仕上げるペティアンだ！彼曰く、前々からペティアンをつくらうとは思っていたが、それに見合うブドウがなかなか手に入らなかったため、一時保留にしていたとのこと。そして今回収穫前にブドウ生産者のニコラ・ウダールからテゼの隣にある彼の一等地の畑に植えられた樹齢20年のシュナンのブドウを買わないかとの提案があり、ペティアン向けに即決したそうだ。味わいに深みを与えるために一次発酵は古樽で行っている。ワインは、口に入れたとたん日本酒の麴のような、香ばしい旨味の溶け込んだ白い果実のふくよかなエキスが繊細な泡とともに広がり、その後シャープに洗練された酸と石灰質土壌のシュナン特有のチョーキーなミネラルが余韻を上品に締める！ほんのりと甘みがあるので一見飲みやすさはあるが、よくよく吟味すると実際味わいは複雑で奥深く、飲み出したらずまらなくなるペティアンだ！

VdF テュフォー 2018 (白)

2018年はミルデューの被害により収量が4割減。収穫したブドウの品質は高かったが、ブドウに窒素が足りなかったため発酵が思うように進まず、結局完全発酵まで14ヶ月の歳月を要した。ただ、出来上がったワインは、醸造面の欠点は一切なく味わいも奥深い！ピュアで透明感のあるエキスの中にしっかりと骨格があり、アフターに連れてスパイシーな力強さを感じる！そして、口の中でキュッキュと軋むような純度の高い石灰質のチョーキーなミネラル、まさにヴヴレーを代表する白亜紀の石灰岩「テュフォー」が舌にまとわりつく！18ヶ月の熟成により余計な肉付きが削ぎ落され、テロワールがダイレクトに味わいに反映された素晴らしいワインだ！

ミレジム情報 当主オリヴィエ・ボノームのコメント

2018年は、ミルデューの猛威があったが、総じて品質・収量に恵まれた当たり年。冬は暖冬で春の芽吹きは早かった。開花は順調。6月から天候が崩れミルデューの猛威に遭った。ヴァレ・デュ・シェール沿いの畑は被害が少なかったが、ヴヴレー側のシュナンは被害が大きく、4割減だった。その後7月の終わりから一転乾燥した天気が収穫まで続き収穫日は例年よりも2~3週間早かった。ブドウはきれいだったがリンゴ酸と窒素が少なく、発酵の際ポラテイルに注意が必要だった。

2019年は、歴史的な猛暑と日照りに見舞われた年。冬は適度に雨が降り寒さもあったが、気温がマイナスまで下がることはなかった。4月に入り、初旬と中旬の2回に渡り寒波が降りた。シュヴェルニーやシェール川一帯など広範に渡り霜に当たったが、まだブドウの芽が出始めだったこともあり、被害は最小限で済んだ。ただ、この4月の寒波の影響により、ブドウの成長サイクルはいったん大きく遅れをとってしまった。開花は6月中旬と前年よりも3週間遅かった。春は適度に雨量があったのだが、6月中旬から雨がぱたりと止み日照りが10月終わりまで続いた。また、6月と7月の終わりには日中の気温が40℃を越す歴史的な猛暑に見舞われた。この猛暑で一部の畑はブドウ焼けの被害に遭い、極度の水不足に陥りブドウの成長も途中から夏バテによりブレーキがかかった。収穫したブドウはどれもアルコール度数は高かったが、途中成長が止まったことでしっかりと酸が残った。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① 今年は樹齢の古いプロビリエールも樹勢が強い

今回ボノームから送られてきたのは、現在作業中のガメイの自社畑「プロビリエール」の写真だ。彼の現在の作業は芽かきと誘引と土起こし。(写真①) 今年冬が全くなかったと言えるほどの暖冬でブドウの芽吹きも早く、成長サイクルは例年よりも3~4週間早い。また、春の霜もなかったため樹勢も強く、芽かきによるセレクションをしなければならないほどたくさんの新梢が残っているようだ。このプロビリエールは彼が持つブドウ畑の中で樹齢が一番古く90年は優に超える畑。毎年遅霜の被害に遭いやすく、また、霜の被害がなくても、高齢ゆえに樹勢がそれほど強くない。今回ボノームがこの写真を選んだのは、4月末の時点でこれだけ樹勢の強いプロビリエールを長く見ていないからだそうだ。彼曰く、2020年は今のところどの畑も豊作が期待できそうな、幸先の良いスタートを切っているとのこと！

次に、土起こしの状態だが、ブドウ樹の周りの鋤起こし(decavaillonnage:デカヴァイヨナージュ)は終わっているが、畝の土起こしはまだ行っていないようだ。(写真②) ボノーム曰く、今年ブドウの成長が異常に早く、今は誘引と芽かきの作業が手一杯で、畝の土起こしにまで手が回らないとのこと。加えてコロナ禍による人手不足も重なり、彼自身は自宅待機どころか畑の作業が忙しくて週末も休む暇がないそうだ。「季節労働者を雇いたいのだが、現在役所は閉まっているため、募集の声が全く届かない。また、例年手伝わってもらっていた近所の知り合いも休校中の子供たちが自宅にいるため、助けてもらえない。これから、開花の時期に備えてボルドー液の散布を自分が行わなければならない、このま



写真② 畝の土おこしはまだ完了できていない

ままでは芽かきなどの通常の畑を行う人がいなくなる…」と頭を悩ませていた。大事な畑作業と美味しいワイン造りのためにも、早く事態が終息することを願わずにはいられない。(2020.4.25.メール&突撃生電話より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大い鮮明な写真をぜひご覧くださいませ